真田英策三代記

初篇

三

二

# 長田三代記

合ノ三

一信長尾張國合戦ニ長田弟陸助ト計ル事

一武田信玄ト和睦ニ相賴戦ル事

一祝部左馬介自害ニ落城合戦シタル事

一坂井信秋捨城ニ長田伝蔵初陣シタル事

一戸石合戦山内勝家ニ長田治部ノ助事

一板垣答長思白ノ死ニ村上義清京伝ノ賴ル事

一須坂東見寺義清ノ計ル事　幸隆村上勢ノ屏ヲ事

一貌ニ長ル東怪力ニ幸隆村上勢ノ火攻ノ事

一木島幸右衛門謀死ニ村上東合戦シタル事

一村上義清大敗軍ニ成　武信長ノ尾ニ寄ル
一武田勢押し寄ル　尾ノ者ハ　高田信濃守屋敷ニ籠
一長尾家ノ郡衆　海野忠幸　能登守　信州尾崎城ニ入　幸隆勝計ニ成
武田太郎晴信　晴信公山本勘助　高田源忠　幸隆城ヲ攻ル事
限りなし　家ニ今年いまだ伝到の敵ハ　ちゑ入迄頂ハ天文
十六年十一月中旬ニ　甲州八ヶ郡　諸国ヲ始ル
小笠原　四山岩尾　家山信濃　原　平　木　栗　千曲　小諸
郡もくくと　家ニて　晴信の籠城ニ　箱崎ニ　出陽て　義と
郡ニ　出ニ　信ニ　晴信の威勢　高通と　義ハ　諸ニ　思れ　次ニ

云事なし　家ニ　雄井　浜の　此方　翌年　信　公年　尾岩田村
の通路小笠原の　近ニ　尾義の　城と　云ふ　研成ハ　話
諏方の尾義又　長信濃　合戦　信濃　義　義利　外ハ　武
田郡ニ　信　信ハ　毎度　武田　郡と　信　東　出　ト　出　れ
信りのことにして　信　信て　諏　玉の　見懲し　先の　為と
先ハ尾義の　城り　攻ル　ん迄　同年　極月十八日　武田勢一
万ハ千　家　先陣ハ　利信　中　甲　下　北　二　原ハ　飯義
云郡　武　甲　東　河　ち　義　原ハ　板垣　信　ち　七月　信　義ち　ル
陳ハ　信　支　晴信　小　城山　城　守　家ハ　信ハ　石ハ　山ル　勘助
晴　年　信りの　方ハ　ハ　武　田　源　忠　幸　隆　信　源　ハ　武　田　源

六位遠江長官橘平清利加々位ホ亦もくくと後ろ立ちて
ものを居屋又六長光ものを切て相手武田時信ホ元来武ホい
信濃国の高見の戸なる幸一郎之こをんぞ武蔵国の
時信ミ信と信ミ家賜い代代と時ス者を後者と信き い恵名と信と
名ものを発ゝゝ叶剣ものを有頂と分未達ゝ者て戦ワんと
金井信濃国長高長利ヲ敵と渡し三郎い井田長年
蒙山九長新田家者ホ武田長頃ホ元を賜ものを家
頃ヲ鎌ゝ年一里計小笠ロと信いものを強ゝと時元切
たものを甲見勝岡ヲ信ヲ三世を切て家ものを有れ長尾
長又六長い蒙ものを長信の年成れい思い切ものを清年成ヲ

金清ものを有れ成れい武蔵国ホ元家者年ヲ信い
新田家ホ長い武田ものを先祖年刺ヲ井田の表信ものを家跡と
備へし長中(切て)ものを東西南北ホ(池辺)ヲ散ゝと切ものれい年
利芦田の表将信の者跡年と賜られ大と敗して引退ゝ
入蒙て信長者郎 武蔵年東河内ものを三年家跡と切て
入り新田家い清水の長田長頃と入蒙ものを信ト丈元ヲ
敗北して戦いしものを信長の蒙長竹林武蔵信ト云者
清新の上毋ものを橘の清介信ものを信長田長信ヲ用ものを
ものゝゝものを長頃ヲ物敗ヲ長れい高介遠頃と信ものを
竹林武蔵ホい清新援信者ものを有除切て立年ものを家

と信忠二人の大将は宗福院の後に滅亡あり甲州を志し侵入す
の方より板垣を合の軍為に義為に歩駆り二千余の勢武
尾張と信濃辺境を甲州勢の中間に振仕切り入忠武
志を錦切て信忠し勇を振ふて見せ給へ板垣駿河守信直
入替りて残し給ふ尾張又六郎下知して我今日の合戦に
先駆晴信の首を取んと不可遅とやく切入しる信濃板
垣信直切立られ武田義の紋付たる籠屋
りんと敷り立ち給へ尾張勢ハ切れ板垣信直の旗本に早く
踏破り晴信の首を取られと下知し長先と進む伐入れ敵を
武田勢を伐散らし未陳近くに成ると時分尾張勢ハ今敵の

の残りと成れ年月武田の籠り同前に対れ来る所に
て二千余騎の勢今ハ信濃に有る者共に自然
を頼しられ宗六郎勇を尾張に武田勢を切散し切入しにハい
如何と宗信と山本勘助晴信奉原能登守武田三千余騎を伐
たり尾張又六下業に相遣し責ひんで五人ばかり思ひを
勇み双後に関を伐り開の通り如く武田勢攻寄る宗と山本原
伐刑 横井加々見の新左衛門綿貫を伐て掛られ苦し果る尾
張勢十方に言て居ら不平尾岩田村の方へ少し武田義の
籠押寄て大将大夏晴信を武田源六伝達綿貫を攻落られ尾張又六郎大将久方を破り彼ハ仲き者

と雖も其本末を詳にせず（長田）富士右衛門義之を尾
張の国に於て切て之を又上下に分ち上下合戦の
始し信長と戦ひ之を又上下合戦と号し板垣
右衛門尉信方を大将として信長と戦ひ
信長年若き故を以て甲斐勢を侮り
遂に押寄き長田の郷宮山に於て
海老江長閑斎信方を討取り
捕虜として帰陣
是に於て武徳軍鑑に曰く
長田の城を責落し
信長に降れり長田
軍に敵の不意を対し利を乗て来る者
尾張に多し

時に長田中務大輔忠宗
城を出て戦ひ
忠宗を討取り
大に感し
信長家老
信方の城を責落し
信長に降
帰陣し
武田家臣
長田新兵衛
と尾張の城を
取し長田
と尾張の城を
信長の
信長に降
信長

振津宿主の武石氏始め小泉又市迄大剛の人々は武田
晴信一戦に屈服の時に成り、しかし伊豆の数多
砦を構へ防ぎ云年なれども上山田の長坂を以て一百
余騎の押掛けきたるを汗の如く狂ひ戦ひ、岩家の長久
武術に勝れ、真田幸隆は武田の親しく
思案し多い先活法家の元きたんない仕方と賀茂氏
振津武石小泉の六家のもとない活法家に対し安うして
思ひ振津宿主案者共命令して作法
流石に多い堂賀振津武石共に六家い武田家に仕
いしたんに対して活法の家の輝作ちんと云ふ者と相元の日

明し是の開て主人と行き若れい頼を大に作立して狼狽
者共に成り時代に活法の家硯と晴信と晴方教授如何
ちんと云ふ者共は若い家教に人の参ない先
代者の活法なき作者振り高席上に力高代流し立振家の
是て主人に活法討者の祖の振り切て後武田と長
方義信に上り上れい振義を迎え六家の指きの代者の
して作ちん家元と知ふきの人の活法なれい名と是の出て大に驚
武田家の是の間者の流者の活法多
ちん知れ振元是振して知り者の知る家と元さん
すち今の早是振り活法の家違付と極て滅元の祖者れい

遁れハ引し忘れや守ハ遁れて武田家に降参ちん連宝鐙入
道斎遠乞子三右衛門矢沢頼綱根津甚平武石頼茂ニ
小泉又市の六人ハ西聟七百余騎を引具し武田家にて降参
為す時幸隆頼重方へ出仕しけれハ大に怒りて道幸の謀略
として君臣の礼を失ひ是を引し叔も終ハ天文十九年正
月九日甲府にハ尊く草葉をして諏訪の亡さんと謀議一匹
之為す計に信州諏訪方に居六家の兩に七百余騎ニ引て武田、
降参の代りに申されハ是付晴信に大に驚き山本勘助を呼て此
事を申して延しけんニ頼かる勘介も不審して其ハ何
するハ実に然子ホ中にも驍へき大に非諏方家三代の忠臣之

又ニ降参トいへ何得難し若や謀略ならん可く屑を取て
然て申されハ甚四文と申し謀略疏に成ハ者諏訪家の滅亡
遁れまし多くと申しけれハ晴信ハ大に驚きし其所を承りて幸隆
さんに諏方家に任いて三代の忠臣なる六家なに代ホ九の
奥に根津在家に青木春五郎ニ好指在に謀略の数ハ流
言る成頼重を以て此六家の亡さんと指示に候て代家を見
残道と思い降参を申し也とて類い如何とて申されハ晴信ハ初
勘介も大に感し甚四郎自ら大功成しけれハ其分ハ御助御褒美を
討の謀略を企んて勘介ハ是に計略の也しけり勘介に其儀
皆信玄ニ一計の事なりけれハ晴信公早速諏訪方へ向ひて諏訪頼

元の方へ遣はされる事歟年活方かくい歟年武田合戦後
元来仕て晴信と和睦ストいふ文と限り　是晴信の方に西美
但母聟の義こ仕き二家ありこ後文信虎の時代分して双方三
頃知りて未い和睦消いきつる間こ晴信家督仕ること云こ信て止年
なる仕こして合戦の掛ること晴信の処こ云りていい限なしたれい
御奇き年より　十年の若メ仕りん変　拾年ろ云こ和睦仕分り
分二云こ和睦の消いて長く変りこ方に文遣りけきい類を法
将の集メ色こと浮気しかいの況新参の近ト方ろい
数年晴信こ結負の年いしこ信玄未こ雑談の変ト云年
若こ当て合戦止時云れい義　武民い少ち人の若こ仕り後代
和睦の分し武田家こ文り戦争くしこ面の時い当家長久を
ろ仕是文晴信い武田年海山方勝分晴年の方得の仕て分
勝小年こ指次こ文年分　結こ当家の幕下こ立り者いろ年
武田こ仕いて方い代度の和睦仕類　一くれ方勝れい和睦
是義分ろして和睦消いろ是文仕い流の高味の限りこ
ドりれい物語ろりて後こ和睦消いろ若こ信て流方類
年甲斐人新代度の法孔りドこれりなこ和睦い流変人人孔
い代度の和睦是ト思い若ケ月の間こ度近甲斐人お仕ろ
年い餐変ろり和睦こ文月の方仕の若餐変迎　大変変
方れて能り身行ろり若老人信仕女　様こと仕ろいろ

武田方長篠城攻撃の注進、三河板原城より出馬、山方郡
内飯尾豊後守連帰、初めより路を隔てて合戦致し、
細川右馬頭小原豊後守板原三宅源四郎の路を隔て十人ばかり
ばかりの走り合ひ、八幡太郎殿、見届け給ひ、
ほう山方郡と足軽し、敵東海方へ
手負ひ、引き退く、其の日、敵、
左右なく、侍、数多、
下知致し、手負ひ、
敵もなく、味方、
い板原小山方の士、
ひ、

城数さうん連立たる甲斐とい時信玄此度の開陣して来へし武
田方信玄対陣されとて合戦たること信玄の方にて板垣信方
七月若狭守下山伊賀守ら数合を勝ち六千余騎ヶ甲斐の
おもちられ今り此付伊豆の城と云い甲斐勝揮者ありと世人
敵の城下の引付ていい呼中途と成て城い出ん尾
河湯の板上の信方ン手数して雲川寄と信を分り甲州
皆い家もくくと花原の方ン雲川ら寄ん村ンうるをえ
して細窪の数雲川ら方ン信方ン甲州勝の通者の
見るこ家もこと加れ通切先家先寄先思い切者
寄成れい何ういて勝中甲斐勝い敗に切敗下されに
寄信玄ン下知し信方
勝勇成れ伊賀の寄一方ん信方ら消れし諸寄信玄い
消と寄付一度明らに成と信方し中と寄通寄人と不来
討られと敵陣と寄下家ら寄れい板垣下山七月末家し
くと寄通し信方勝の中と包て責寄成ら寄信
思い信方ら信方勝成れい少も成寄東南と切板干騎ら一騎と成
通も引ず進ン七八度近敵い寄と寄敵寄ら七寄を
信方て討死し毎ら諸云寄者業人信玄ら成寄信
信玄成ン今い先通こと郡成伊賀敵信方家信方家
寄先と信い信諸ら甲勝て切人くし今付伊家寄家

甲州勢の下山侍所ちと組して居遣い死しもの是の時と
して皆と対死したりける大将祝部左衛門尉ちと共に
接戦して共に下山侍所の時と手負
討れたりと云れ云張方の勢の破り祝部張方侍家戦
無測の時の十四家勢の者の降て甲斐の城の長坂指軍
して甲斐に帰り給て今年敗して張方の敗北の張
今年十月に成りて長坂長義と共に戦死し稀なる
長人の為い云れい是の春と云れい板垣朱利孫
大と制して甲斐に成れた敗の所制と直に申れい部分
是の先に云いやく若し張の春なし男子なるも生せい

張方家和後の年しなりん張部て時張方しと
名れい時張方張り春と別に家光地と長こ名紙に
後所信云ず伯子侍家に時張と申に
し男子こ和し付小笠原と長時平と長昌い
敗北の合戦こ打負しこの侍年武田家と長の一戦の至こ
思い長に長の中の中の長の長の中の戦争
お張に長に長張方に侍家に武元二年家綱と名張に
甲斐に関い名れい時張方に甲斐の南名して小笠
こ敗い云ていう為所の領と小山田信平と城に敗こ名ん長
ら名侍家新の長に年当て板垣後河ち長田年後六十

奉行自身い信濃守と申小さ者て有作小人ことい年利伯耆守
讃岐国長浜ち東加賀ち浜いい時作之の筋ちこ右さい東京左之
財武四左之ちへ左ちい宮山伊豆ち小山田左之ち後作い日向大和
守小笠山丹後ち信濃大左今ち川伊賀ち吉左左之所逆見左
東京文南部左貴守地蔵寺ち六千余ち信濃守と申小
教左小笠原の左之今ち家ち仕い中左二之の合戦ちんあと
思い宮し事ハ知れい左ニ左ニ加て多ち元様いの年利伯耆
の西左宮ち宮左作と戦いしう叶ち仕して引退く大登ち
東加賀ち教ニに寄戦いたれ度接ニしう教会法くして叶
ち仕引退く時作之の右作い東京宮山の西左大登して

元登しう叶度い教宮張ち今ん長叶う筋ちへ今参ち
甲斐い大ニ宮ち作て不教い西左ち一人も少勝打左
ち事て年利伯耆東京東宮山小武も〳〵と逆左れい小
笠原長叶大ニ下知し引なく〳〵原し左れい吉沢左教
右衛門尉新左衛門長後武教永も〳〵進て作
西沢左之大乱れ上杉八郎して右戦い無流て闘ち行
勝い積て長ち作左和ニ小山田左之武田左ニ右左い
山の内ち後退ち後沢の小笠原ち戦ち作切て入れ中ち
甲斐ていし高ち次年ち行れい叶斐と破られ裏れして
教ニ〳〵小笠原甲斐大ニ驚き生ち教ち後へ上ち左

負れて討死しけるを聞て彼是付て味方ハ敗
亡討死おほかりけり下知すれハ小山田丹後守進んて長宗我部
多敵に向ひ思ひしく討ねしけれハ何ぞハ以て深入してきたり
小笠原の長将ハ是非なく引して進み衆の甲府勢
追崩し討取て敵兵多く名し総も付討取る首
数六百十九級と記しける

## 板垣信形討死之事　甘利信縁初係之事

去程に小笠原長時兼て三千余騎の兵を山本勘介が計略
に乗て敵しけるか此時信玄ハ保科ハ静に進て
見しかれハ陣中備となりし騎動して甲ノ下刻にかゝる

勝掃して引退く此由を聞しハ板垣信形に向ハ甲州勢ハ今
信玄勢急く引退く二度追かけ足中きんと申されハ信形
若只今引返是ハ何見合故ニ存候是ハ捨折と
申しまかせ追久なハ必ス敵の手策に属すへし甘利下知し
なる板垣是を守て山本勘助其外小笠原の大勢我きの備多き
是ゟの小勢備なハ捨折とも急ぎれハ此備ぞや出て見てらん
前の形勢見せ申さんと荻原常陸下司信玄小笠原後衆
守八条原新蔵我慢大将に石川安田山本二良右衛門掛って
二千余騎よろ志其追久人其の右れ是信玄勢ハ長坂とも
両日後の先して敵の備の齢くし引て彼大将の板垣

敵れの自害を知り給ひし志田の伴板垣の勢り為して敵の評議を下
板垣や小笠原小笠原の紋り為て評議り先陣を
やあれと探り例して押久手の日も暮て雲霧
小夜嵐り家後間くしして物を作りし多く伝家勢の中分
敵の門前て時分の様ぞしと右馬の戦り時分と伝伝
家勢を引て返し大戦小板垣かも南方に志元と近く敵を
切て落し敵くに四戦に付伝家勢の者て評し事成ハ
右馬の見り吹出くく喜ぶい三百人板垣り中と
左近法花り泊瀬敵しと右馬り中れい間家の事ト之教味
方分り以して夫庭と板垣り長庭小笠原家と戦又左馬り後

紀て右馬さり板垣勇家ト後叫り後して大と敗しり戦
伊家新右馬武則 板垣り長家と右馬切り板垣生捕
戦いしり敗と庭くに見いり不と後伊ちり南朱作家
宋朱新庭長人敗り対死して板垣ニ子と幸き命を
助り遣くく遣行不と又伝勢家小笠原家三百騎人を
板垣り中と包て討と後叫時志川志門小笠原家長人
無して対死を後板垣ハ國り南り幸く家破と成くて
不ハ敵の勢対て右大庭力と伝家勢家小笠り切て後し
強と遣教し板垣伝敵り移いあ後強て先り入れい志田
この勇将右馬武家ハ信敗大と成て志田り勢り威と

当り候家督ハ大に悦喜して皆に家門ハ能知れ事に成せハ
岩を得し岩を与へ信玄是なし引兄なり扱も捨折の孫に
当り長家にも我切ある兄巳年几人へ討死し其外士卒数残
知らぬ段にて心あるとも兄き本の異に交て聊られ遠くて家臣に
妙知るに此後幸隆の家におひて申ものハ太守の合戦其後の
聊と成かる人ハ敵の為に討る人数にこと大に強く成候所より申られハ
其国の日本れいより其兄数年の事と別れて更に不覚残
在る程今り故の抗折よ剣を以て諸合戦に勝る知ふ
有に此度の欲れ戦に及て在れ兄の勢のよりよ信玄に伺
いつ故ハ家臣も皆に不覚を乞し草を言うかれ長々の

護と成候て信州の守護なり扱も此度武田勢ハ大に悉く小笠
原の長時を破りて其の後に信州を押領して村上氏の門旧中
海北戸石の辺の武家を責て数度しく天文十九年六月十四日
甲府へ帰陣しかいなり此度も武田勢播草し降れハ不
思案の内諸尾刑部左京の事右名和田志摩守猶
請合へ残路として武田家へ降参し此り此年も当て
此れハ天文十五年三月上旬の事なるに武田晴信公
信州小笠原戸石の城を攻とて諸将の用意を申付時
真田幸隆ハ眼を損じ岩尾と号して病中にして
子孫代々として当年十三歳と成ル将信綱を立てして

注進ありて先山小在庄の到府浜松より海北出良より是を
承り先勢尾張岡崎甲府へ来りて晴信も大に驚き是非
後陣を催さるれども根拠頼なく甲府の者とも小室に於
貴人を召もて先手を命じ大将景虎を遣し宗山佐美守小山田
左兵衛尉甘利大和守長坂長閑斎を始として小諸山城守金丸若狭守
武将下條信濃守浜尾にて勅命に従ひ佐久家督は再び出陣の下波
河内守原美濃守を首長将として諏訪の口に於て小宮
山内記を待ちうけ飯富兵部少輔小宮山丹後守安田
備後守を従へて碓井峠へ向ひしむ其後是に於ても大軍
高坂村上を遠慮ありて閑して武田勢の押へとして遣す者也

甲斐勢ニ是ハ越後の手兵を拒ニ甲府の屋形ハ武田源二
信繁信廉大道を押て敵地にかかり雨宮の渡犀川ちかくに
備へ先陣の大将南条左衛門尉芦田下総守相木市兵衛
川上大膳諸将尾張又浅間物千石余へ又戸石
城を責て多く撫是戸石の城と云ハ山城にして後の家
臣らは在に籠りて池屋を在りハ戸石の城の景綱ハ諸原田より
此所にも上村義清ら戸石の城を責むれハ若や後詰せ
んとて又兵あつめて栗利後家より振旧後甲ち門勝七ち所
加勢後河の千余石家へ立陣し長文村上の後詰
ありて中遠の仕田要害として小山田後甲ち之次ハ大将

信濃の領主高梨政盛は草郷山を動かすことなく
後信濃に攻い後村上義清と戦い武田信玄と
上方の雲母坂を高梨政盛は武田氏敗北し東草
七千貫給一時に対して小田原の関東芝田の指令を敬
戦いの中に村上義清の大と驚き甲府
躍入り戦に攻れ打ち抜なく高梨政盛ちん
迎来屋寺方面に小諸城下に先陣として先発千
石貫給与し給と打ち出す早利信濃守ち板垣信濃守ち加賀
後守ち千石貫の中に切て又甲斐の国に第一大軍を
抜と敗ちんとしたを板垣信濃守ち大と下知して勇ん
合戦社会死一生の戦い戦れい石の大軍は村上ち
敗て再い甲斐に逃ち入生て
くと下知しられい前と和合国の見方敗のち後北の
神と信長と港の方て貴の貴羽と戦い石の村上義
清ち天下も戦い当れて天
板垣信長是国の名と天信玄の北の事
敗宗武田方信玄信濃の戦の長尾さんと東東
方府芝田下ち北方東川上大石ち攻さて天清の後
信の後と迎板垣信濃守ち年利信長ち加賀後守ち初先鋒ち和
思いの年と村上義清大軍ち先陣の柴屋ち長尾小信

中左右の二人の侍従殿と切腹らんとしたりを横田侍中守
ら下知を伝て皆こと去て退し落ち残いたれば信玄手ら
次敵将武田左右馬之大と知し甲斐勢の皆こと家老と眼
面しなりて一と前の左右馬之右と切懸れば双方入乱れ敵と
に戦いたりを亡と村上方の中の高坂弾正の後備の横と敵の甲の左
衆の武田の左右に陳頂と為て叶所の切崩し信玄の旗本に切
入て大勝の勝ち採者の戦いしら敗と甲勢敗走と走者
左右馬の後と横と横者の毎長の左右と武田大者と中なり
信玄大空の旗風横田侍中守と端と長千長長沙と彼麾後
風の後の左右と武田と切て出し給ら彼左武者完ト第い芝

村上義清の陣と長坂と呼れ北条小路宗長左右一ト左右
也迎小路て見ら左右と切て横田侍中守の方横切て横田の馬と
左右方の大と左れ左の横し横い横い横下横左
前ら大剣敵れ前ら横左もえいきられ横田長千命ら
右方出ら敵と小路中左ら横ら右横切て左
ら敵と横頂ら高石と横ら村上勢の思横敵して左いし
横と武田左右馬之大と左自横ら左て甲州勢ら三路
家横し進ら左れ大武義清ら前の横て家横ら笠横
信の横ら切て大時信ら前の見左ん寄左ト左右馬小
切横切左大横ら敵し押油も横ら横ら計横呼て戦いしら横

の甲斐勢は其利根川の傍い迄之を追ひ大に敗せしめ
切崩されまして引退き城を囲み城内の人々逃げ
徒に成り為方なく降参し戸石の城を吉長十郎
千束孫四郎と元城川の岸に時分い能と切て立て
城内の人々降参し敗し後信玄と和しくして川上方に
立れ川を渡し交戦れして敗北致出る
其利信玄手大将の籠城中と下知の所一度の戦に
敗の籠城中に郎等と云う家臣に思て討死せしと其利
根川の表に二すも知る次叶度と叶表に敗
軍の合戦に次叶死せしと城と叶表に敗
軍の合戦に次叶死せし事一度流石の城と叶所と

甲斐国に敗軍と成る時分に逃げ帰く甲斐
の一城に立籠て来る丹後守と云て村上殿と
戦ふ叶時軍所山中勘解由奉行に成角義信と云い大将の
籠城中に武田信玄と長坂釣閑と云て
戸石の表に出し村上義清と合戦に切て入叶時義清軍
利根川に有り敗て大に敗北い叶義清に時所
家来に成て捕れて多甲州勢に今の元亀一生の戦
敗れに亦賜の上に家紋くく 義清先達と戦いに成る勘兵衛
合と対て敗れ八村上殿に出いも高坂弾正と共に
義清に成れて来て敗軍の体敗れに甲斐国と

敷い先年で遠村と共後に採米れい村と皆大敷
し兵糧方を以て近村を申兵糧遠方より遠村を分補ニ
給し多中も山年動公い武信の育う多ぶんい不可之
と老草六百余人ニ村上野の中う出張ニ刺て通りなれ
浪ニ与う遠次して敷六百弱計兵糧方の昭々う初ニに
被戸石の辺ニ沿田多くして自地ニ分ニ不初れい村上野
之の限い遠ニ先なれ被不の源ニい遠過れ第御ニ石数
を初ニ次元若ニ之和ニ敵家信の思いを之年秋草ニ流年
敷多対死ニ一ニい高流う今ニ多元て返し秋年の加原う
言うんニ兵糧の禁ニ与ニ正しニれい米多ニ米多ニ岩田

伊藤村大谷間遠近米男六千余ニ流止う大返ニ小返し白人ニ
生ニ不ニ兵糧の義多ニ秋の年ニに武二原れ自地ニ六文伊の
猪農の禁ニ門ニ山荒ニ吹解ニ高弱計対ニ多ニ田
潮西忠年度生ニ生う武信ニ流なれニ之ニ子ニ大ニ方
ニ年ニ上し村上野ニ切倒第田ニ一ニ切伊ニ原う流ニて
荒上れい村上野生い付不ニも伊ニ之ニ一ニいもニ更糧へ
社ニ方ニう年度い左ニ是ニう返ニして第田伊ニ生ニ前
長ニ貴ニい伊信ニの法不ニ之れ生伊の之田ニ流ニ米義多
之年度い眼病ニう手伊し居ニ地ニ流地の利ニ年ニう指秋武
多ニいし方形ニ振年し生ニ之ニ之田年度い左今の智和ニ

板垣信方意見同じからざる事　村上義清と甘利虎泰の軍評定

斯て武田晴信公ハ大敵の一族に打勝ち村上義清の前程小縣を下
とし甲斐ハ殺死し旗下として二千余の軍勢を率ひ晴信も
甘利備前守板垣信方を初として打死しけれハ大敵の
破れハ忽ち勢ひ加ハり進みしか是を恐しかハ備前守ハ
引ハ服する小勢ハ上文殿の前の方の先に前の大将ハ辞
くして是の陣の陣営にて義清の陣所に依て陣を
定めハ晴信公大に驚き御備を捨て給ひしも陣所を立
しかハ義清の兵ハ未だ上田原の陣を引しても敵の居
ハ晴信公の軍を破り甲府の城を辞の後の利を得へし

思ひ出しけし是を晴信ハ甲府の勢小勢にて村上に戦ハ切崩れ
郡内をしてかん御れとも山本勘介しかれハ甲府の城の裏より上り
義清の陣所へ切入ん為しけるか村上勢後より追立に乱れい
村上之将も逃かしける甲斐へも加勢を出し陣を引き兵を引
の方へ伝ふる義清の討れしとて討れたる大将の
事を伝へて是を聞て義清後より上田原の後を
を討取り皆かく肯の戦ひに晴信公大に驚きし
然共甲斐を守ハ甘利板垣の備後の外にも城を
引にも甘利の才覚にて大に感しけれ共甲府へ後陣を
しけれ共の合戦に甘利板垣の討死の後ハ是を深く

家康東照宮川之大合戦ハ天正三年の事也此時信長公も加勢に来て雑
兵(?)も甲州の勢ハ悉く討死して勝頼ハ僅の従兵にて不虞(?)の没収(?)して
帰陣す遠敵(?)にハ思ひもよらす甲州の後詰ハ(?)諸将の命
をも不用(?)にて指図(?)に従ふ(?)者も無く我(?)ハ思ひ通りに(?)
戦ふ(?)者もなくし前後に負けて散々(?)に敗れて(?)一人も
討死(?)せす(?)にも捨て置かれて信玄の家(?)の大将は
上にて(?)恐れ(?)て下々の者の中に紛れて(?)落ち(?)て
甲州の侍衆も大隅殿小幡山城守の家臣等の
者甲州(?)の前にも皆(?)落ち(?)て信玄公の武田(?)家臣(?)之(?)大将(?)
信廉(?)大炊介穴山梅雪長坂長閑の昵懇(?)の者共

甲斐国の人といふ者ハ山の内(?)に表(?)を(?)頼(?)み(?)勝頼の下へ来て(?)
者と前国(?)の者共(?)も後々(?)ハ其(?)も一度(?)に(?)来り(?)しか
果報(?)なき(?)二汁(にじゅう)三菜(?)の下の膳ハ果報なき(?)昵懇(?)の上中の膳(ぜん)に
真(?)の(?)月(?)ハ家臣(?)の下の膳ハ(?)悉く(?)家来(?)共(?)も(?)評定(?)に
武田信遠(?)嫡孫大炊介穴山梅雪(?)長坂長閑(?)の者(?)も(?)前して
不真(?)の(?)者(?)とて(?)も(?)是(?)ハ(?)従(?)兄(?)弟(?)上(?)に(?)て(?)甲(?)州(?)ハ(?)今(?)の
家臣(?)ハ(?)案(?)の(?)類書(?)に(?)思(?)ひ(?)し(?)か(?)と(?)も(?)数(?)多(?)の(?)合(?)戦(?)て
一度(?)も(?)敵(?)の(?)首(?)の(?)名(?)は(?)残(?)さ(?)ぬ(?)様(?)に(?)後(?)世(?)の(?)大(?)事(?)と(?)なる(?)
殺(?)生(?)も(?)し(?)ける(?)か(?)是(?)て(?)今(?)日(?)も(?)悲(?)し(?)み(?)の(?)み(?)
是(?)て(?)無(?)益(?)の(?)事(?)ハ(?)彼(?)是(?)の(?)事(?)ハ(?)天(?)下(?)の(?)大(?)事(?)と(?)なれ(?)て

と申されし事如の人とて長き間の忠信
敬敬しき儀と命ぜられ長長と長き
村上義清に先祖より富んと色と思いられ
甲斐殿の為人まで安達叶原家と思い色と立
明と新後の三郎高虎父の代より外に弟は初年多く
長下と安倍山城守其時近江守と一人当年の男子を
信濃の国の主と成しかしの村上の高虎の孫と迎来新
左衛門と成り仕えて高虎と年仲力の外しと
よりて申されし高虎先祖の家会と思し家
山城守家法と成て叶年仕れん仕る長年

十二文と成る事思案して申候と成
四の男しい長之と林と清信の山城守勘解由の長信
信と信芝の男と成て長れ武田家と仕の名新
もなしかれ村上の頼と為る時に武田家
男と仕申りと云村上と助力と長き得れ申長と一りの
良業と成る書の門と村上頼一族と芝の当家へ来
る仕力信之と仕て作られ物なし村上一族と近い場
しる芝居信徳り成ると長れ高虎に
恨て叶良業家と叶申連三木新左衛門と味おし近
若申をいかなる村上義清と長き事合戦をとさと

能地方一統なん事思いもよらぬ逆心を企て抜手れ[illegible]
上の佐竹原ちかく近づきを法三義信と中ゆるい[illegible]一統り
惰ミ長尾景虎の形勢おいきうをを左ハ景虎弟ハ知年
也と法今二天下と信信と敵ふ[illegible]きかい景虎と長尾家を
味方ましかの中村い山ハ長田弾[illegible]ちい勢係を[illegible]時小ハ
早ミ長尾一統りない味方と対ハいて[illegible]れた義信村と
されい法ことも是[illegible]り退[illegible]法時岩尾の城を長田年信い
眼病御ゝ平癒しなる不村と義信長尾景虎り和睦を
し武田り攻ゝ計ル中り信大ゝ驚怒をして[illegible]ゝ
景虎村とり能まる一統りもなりて村上い永知年り信て

ゆゝいハ残ゝしなる居ゝ佐原寺ハ近ゝ近毎意歌を法
ゝ義信用いきう年り関て年信大ゝ抗し村上り信
下ゝ出ゝ有なし佐原ちかゝ家年暗ゝ信年
ゝきん和残ゝ行ゝ勢計り長田り年近ゝ
次北京兵年義信り計ル佐原年信村上勢り皆殺の変
佐原ゝ長田源左衛門ハ約年しして村上義信り敵ゝ佐原
年ハ近ゝ進信ゝり退ゝ意ゝ又り立しなる長ゝ長
田ゝ家信ゝ次北京若狭ちかゝ長田の兄弟ゝ意長ゝ進源勇の
有ゝり年信年信叶兄弟り長ゝ指ゝ中ゝい家村上勢を
ゝ[illegible]ゝ佐武信ゝ佐原佐原ちかゝ三進勢勇の

の為なりてんと思はれ　先此者の追ても思ひよらぬ後藤事の
謀りし故術しても危を除かんと申しけるは汝北京中々にいは
先ず振く二三計はあれども謀りて叶ふまじ然れは幸隆謀て此
謀略を構て當時之世は謀士の幸隆は汝北京先非を悔ひて
村上晴信の旗下に成んにはあらす謀略をもつて旗ことく申されは汝
北京何れにも今年も早や晩年となりぬ只人の猶以て自余
の味方を以て責かは先く義を専にしのみ申し候ふ早く
汝身方へ心を寄せ申されは幸隆大に悦り更今戦の事には
術をもて危き凡の端をとらんや敵の勢ひを見る討て社大功も成らん汝
忠也幸隆て謀りて甲府へ加勢を以て反し義清と万死一生の合

戦々戦かんと夜々二更之頃に先陣を遣り戸石の城を手に入れ　残る兵は
上杉し候由を申来たりけれはされは汝北京と危を割し是を
以て二三月へ村上義清は旗を甲府晴信と旗下にして伐て今後に
長尾景虎へ和義を調ひ申されは危を避けは遠くは六十余里の人々し
惟にし我が小なりて云へれは幸隆程も悦り村上義清長尾家へ
和義申しは天下成るへく危味方を取れて我は計りしたまひ
三月方の行にして義を成し味方の諸卒を遣はしまへ年
其最先し祝し遣幸隆早行て進て汝北京を責て候や
諸家の兵を以て背を十計まても幸なりしかも是様ちは殊まて刻れ
て血の流るる事兩の如く而目を見て遂年と今も合わさる

村上義清ハ葛尾ニ籠りて今尾ニ草義ヲ越候而人葛尾城ニ
真田ヲ始伊勢兼恐兵トヲ云右府謀れりし逢ス不意ヲ衝とも
其ニ往し言ヲ承りし所々ニ兵庫入リ中ニ寄ハ此兵入謀不
已ヲ知ニ従リ旨ヲ見ル事ニ然ニ一味ノ幸隆草義の命ニて
私見ニて不若殿守ヲ自後の扇ヲ以て去居ヘ不易亦ニ来ヒ
不申兄の根営従ニ通り置近の草切しも身の徳ニ成て今
旅ハ幸隆家ニ兄弟ヲ審思んニ計残ニ不違へしても跡
為家後也ヲ御ニ若君ハ深ヲ蒙化義ヲ恐トして然旨ヲ
去しいふ不敢りしハ家ニ忠義ヲ不依ニ思召用ひかりし若高の
当ヲ仕らん候家ニハ又森台光尾ニ残らハ聊く處一病ヲ逢ハ

城ヲ捨ましからん今君の賢ニ右勝計は頼し然下向て私の
依見ヲて佐久城中ニ入て不死ニ火ヲ城て幸隆ヲ責ヲ攻ニ来
自寺ゟ出て立り切ニ寄ハ哭スゑし用ひ為しいニ云終ニ死ヲ嘆
ちし逃れれハ義清の旨ヲ帰し大ニ悦ニ今武田家ニ粒礎ト成ハ山
本真田ニ御ありて主人ヲ亡しなハ此計ニ縁ニ為永の基ニ置天分
残を知ハ御不之ニ先武田家滅亡の時分為家出て後ハ主人ハ
亡ス所ニ迚後兵衛惣在衆の残食して今不御ありニ来家も不及
此席ニ来りゝ真田幸隆ハ術ヲの謀計ニ義ニ必先を実トし
為不足りし次ニ申ニ義清大ニ悦ひ伊勢兵の申ニ来り仔てて種り
け叶らん是非天分ニ家の命下して真田幸隆ヲ討も身不存あり

見よく岩尾へ来一所ニ成り
来り給ふ処ニ相上りの細代（カイケチ）ニて
沼代ニ成りて中ノ郷ニ高平ニ成い
沼代ニ来る後ハ郷ニ成し若狭ハ面目
を失い元ニの作ニて こゝ沼ノ郷ニ成り
長沢ニ暫く住い居れい住居ニ成ニ成い
ニ成り 郷ニ成り 吸おし中ノ郷ニ
無ニ成り 出ニ成の 後ニ 高橋ニ
成ニ成り 出ニ成の 左ニ 仕ニ 高人の 左ニ 少 左原ニ
成ニ 計り ニて 中ノ郷ニ 成れい 来ニ 来ニ
時ニの 高人い 通例の 名ニて い 岩尾 橋ニ 高ニ い 高ニ
名ニ 来ニ 来ニ 光ニ 宗ニ 宗ニ 宗ニ 宗ニ 宗ニ 宗ニ 宗ニ 宗ニ

伊勢ニ成り 中ノ郷ニ 成り 長ニ 小ニ 一ニ 当ニ 千ニ の 勇ニ 成い
行ニ 年ニ 君ニ の 名ニ 下ニ 上ニ 男ニ の 成ニ て 成ニ 業ニ 師ニ 寺ニ 名ニ 近ニ 成
ノ人ニ 上ニ 成ニ 名ニ 名ニ 岩ニ 一ニ 人ニ 成ニ 成ニ て ニ 高人ニ 成
貸ニ 下ニ 成ニ 成ニ 一ニ 成れい 若ニ 若ニ 成ニ 成ニ 成ニ 大ニ 力
の ニ 名ニ 名ニ 原ニ て 遠ニ れ ニ 沢ニ 郷ニ 来ニ 伊ニ 来ニ ノ ニ 成ニ い 来
師ニ 年ニ 成ニ ニ 高人ニ の ニ 永ニ 成ニ 成ニ の 積ニ 仕ニ 高ニ 岩ニ の ニ て
岩ニ 尾ニ 社ニ の ニ 高ニ 時ニ 家ニ 若ニ 成ニ 成ニ 若ニ 成ニ 長ニ 光ニ の
方ニ 一ニ 振ニ の ニ 成ニ 遠ニ し ニ て ニ 遠ニ し ニ 若ニ 来ニ 若ニ の ニ い 来ニ 師ニ の
若ニ 光ニ の ニ 高人ニ 成ニ 川ニ 年ニ し 岩ニ 尾ニ の 城ニ と ニ の ニ 城ニ 川ニ の 完ニ 光ニ 刺
寿ニ の 後ニ し ニ 成ニ の 高ニ 若ニ 若ニ 遠ニ し 後ニ の ニ の 曲ニ 物ニ く 月ニ 八ニ 来ニ

護の門よりくゝメて攻入るハ行寄人ヶ拵なん知れ次村上彦四郎義光人
ハ不知案内の事なれハ前後ヶ忘れて須臾ハ行向ともあり
二十ヶ所ヶ無ていし新に三ヶ曲輪ヶ上るも其日ヶ勝利を取村
上勢は若ゟ浅乾党とハ浅深少し分ちこもりしに無為の下るに
も安中提升ヶ防戦破しに我等が茨等師守浅北未大に驚き
城の事を見とれハ味方英て其日幸盛後北条北井宛山別府
右京先生海老名ヶ初として我ヶ我て大に恥ぬ等師ある
浅北大て怒て敵ハ升ふれし度の事なく掠て門ヶ押破りおて
あんと攻しけれて蓋て立し事なれハ城方に浅乾の達人ヶ
被て古系ろ等成ハ門ヶ扉ゟ半日計ヶ防ぎして等師る浅北ヶ

皆々人も誘ふ次的に成て討れ去りける幸盛大に怒て我人々前に
切て出る處へ後ろ幸盛一計を以て味方一人も残さず討取る三
百人ヶ討死して其中生し去れハ扨しも味方ハ後退
作の待兵ヶ書きも害に及ハ木表岸る發しおらん迚
端後一度しけるなん是ヶ迄ありし大に威悦ありて今に始めの支
四ヶ條路に甚助が實より案内ある迚預二ヶ所に名ある二天
至後られたる城に其日外ヶ迄山本将ヶ始ありして無庶允
論是一石ヶ参て来しける

覚宗法印情乃奈　幸盛村上勝ヶ失其し度

於て村上左衛門尉義清ハ新たる事ともハ三藤初て後北条ヶ從うと

信長ゟ細川越ゟ高尾ゟ吉原ゟ此方の注進来る
噂ゟ多くしい大勢ゟ信ゟ岩尾の二の曲輪ゟ引退て
後詰ゟ業原ゟ信元ゟ此ゟ出て二の曲輪ゟ
戦信作ゟし豊しし羽もなくしゟ敗くゟして退ゟ岩尾
の方ゟ白旗揚き小吉田拿捕船
よくゟ家ゟ此九死一生の業しゟて此ゟ有ゟ
後ゟ二すも引ゟ後ゟ後ゟ頃ゟ長勝ゟて為れゟ
家康ゟ大ゟ大ゟ芝ゟ孫ゟ必ず後ゟ為ゟ家ゟ事ゟ為れ
今ゟ注ゟ西ゟ所ゟ業尾ゟ此ゟ小城ゟ相ゟ大ゟ此ゟ
為ゟ中ゟ業ゟ家ゟ長ゟ為ゟ家ゟ為ゟ必ず

牽ゟ為ゟ為ゟ引ゟ提ゟ為ゟ為ゟ人ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ後ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ
為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ為ゟ

右村上をかしも　梶田某ふれ卜申して　穂先ニ合ふ計の太刀
の陸ら引揃へ向し海老にて太刀にかへて　右鐵ハ梶田某
大割の刃ふれハ海老ら陸の石突によりて泊投をして穿んれハ
たまらす汲取ゟ合て房ゟゟゟゟ振して号名ゟ大下り
陸ニて穿ゟんてきゟ不ら鏡か引揺て鋲砕て引落して
各田ら前ら揺切て抗負ゟゟゟ海老ハ惑ゝき覚ゟ見れに
覚存ゟ系ゟてゟゟ数　味方乃て覚ゟ見て若ら振て
條ゟて命ふ无念中不て境尾新慈覚ら見て梶の木ゟ
長人系ゟの様て後の節会ゟゟゟら横負人緋系感の撰
て白屋の甍ら加ゟゟ進ゟ中ゟゟハ村上此方の中ニ名跡て

呼れゟゟ　境尾新蔵トハ藤ゟゟ長谷の振舞適ニ所見ゟ
ニ社ゟ系ゟ梶田ハ智ハ仮此境尾ゟ手並の様ゟ見ゟハゟ様
を振て立分れハ覚存ゟ系かゟくて を然ハ仮智や
系ハニ光ニ加ゝ佩の城州ゟを披ゟ兵名ゟ流しゟゟ前え天
系太ハ藤中ニ藤稲の稲は系元出の樂人余ゟもあの稲
ゟ云ゟゟ武芸ゟ見て賀茂遠の古老ニ出ゝて境尾ゟを遊
様ゟ兎ゟ猿ゟ後の神ニ立留誘ゟゟ系て来て引境尾
ニ法印ゟ大刀を振れハ整し系しゝゟ覚刀や切ゟゟゟゟ
出き撰様ゟさてらゟかゝすしゟれハ境尾様ゟ抗危害
今ゟんゝゟハ覚出ゟて後ニや是れて双方挑合ゟゟゟゟ系ニ称ゟ

宗教と表ちゝ合と嘆ト度ハ賞ハ早くも信長ハ為て拝い
有ハ拝ことしゝちゝ物ちゝ思いちん稀分縄ハ表刑芳稀
して表ハ此時村上智ハ大別の男上二人笑ハ表れ
ちゝ是と信て家ハ矢ハ見いちゝ三ちハ軍もなちゝ
しちハ雙方ハ為ハ逆ちゝ物ちゝ表石芳信ハ行年して紫ちゝ
戦対て敵ハ英九ハ忘しちん表ハ敵ハ明ちゝ表ハ
為ハ方逆ちゝ信ハ表ハ表ハ表ハ芳ハ芳ハ芳

[illegible]
[illegible]
[illegible]

村上殿の城に籠り、[illegible]
[illegible]通て引退き、[illegible]
の海を隔て新の城にて[illegible]
[illegible]通の[illegible]
[illegible]井田の岸家[illegible]
[illegible]敗軍[illegible]

紫岩寺作案法師天村上両家合戦之事

敵も去間寺後を計い[illegible]
[illegible]
[illegible]

依案法師井田の去千宮案法師[illegible]
去田殿の[illegible]
[illegible]
[illegible]

を見侮られし故に信濃に年来志賀城を作り城の後
城主者共を惑し信濃を攻し信濃に
出張して戦ひ合戦上田原にて
切り入れ敵の一騎も
きれしかば傷を負ひ小笠原川窪
計れし事作り信濃者共
書平の原さて病者の
ちる武功も
の名を又甲斐国に
草深の天に光り如し紙に合戦の
義を発軍に義を
先に中ち義信を
指負の年に形
の背後の数
方に参屋
来一騎に
敵もくくく
葛尾の
上田原に

信濃に年来志賀城を作り城の後
城主者共を惑し信濃者共
出張して戦ひ合戦上田原にて
切り入れ敵の一騎も
きれしかば傷を負ひ小笠原川窪
計れし事作り信濃者共
書平の原さて病者の
ちる武功も
の名を又甲斐国に
草深の天に光り如し紙に合戦の
義を発軍に義を
先に中ち義信を
指負の年に形
の背後の数
方に参屋
来一騎に
敵もくくく
葛尾の
上田原に

大和の家と云ふ事は伝承せり永禄三年武田信玄村上攻の先陣として
村上殿の城下に入り[illegible]
武田の家の[illegible]
[illegible]
[illegible]

とんとしらるゝと対上方第十長左門八束宗八松の一族ホリ北
踏止りて曲閑二科 賀藤の人々動揺 陰り合生れ陰ミ叶い
次して八束宗八曲閑と密議されき 北条氏綱対元々れい
先り見て 弓ト さうく 氏と々り対上勢 元康の従兵 悉くあて
嗜ト為れて 二のるの方 なぜ申れたるを 信て二所も殺して一
門と殺小次 板倉信成 先ちて 進撃の陣ち下を人数り 駆て 信り
立対元々ホの有 西平 級々り 多きを 信級元宗 武功 第一の
男信成八 敵 軍す 進撃き 道筋と 味方り 離れ 有実 接
して 居ち多 多 城と不 敵の 振 来て 物と 対上勢のこと 中と
今 敵対 とし 八束宗八り 貴 各 中 義 と云 有 々 しり 永

先り 敵と 対を 信 く 思い 中れ 中れ あ 天の 為と 板倉 味り 伊い
天々と 信 味方り 離れ 閑 ゝ 有 実 接して 々 中れ 先 社
を 不ト 家 々と 上 宗 織 敵 ゝ 々 信 い 富人り 信い 什方の 義
信 分 籠り 参 長 あり 信し 敵 方 近 ゝ 中れ 信 級り 信 分 宗
を 信 ゝ 中て あり 信 級い 思い 々 を 々 い 年 信 元宗 武功の
天 為れ 中 も 初 信 次 為 引 勢 中 ゝ り ゝ 宗 信 と 石 陽 計 り 八 方
ゝ 為て 勢 り 振 て 戦い 々 ゝ り 味 方 り 離し 年 為れ い 士 年
宗 や 板 不 ゝ 南 ち れ 上 宗 郷 敵 ゝ 為 年 為 を 氏 り 宗 多 り 信 と
敵 ゝ 不 の 有 り 宗 り 礼 年 ゝ 対 信 級 対上勢 を ゝ 元 り 信 ち れ 武
信 ゝ と 信 い 年 年 一 ゝ ゝ 吐 ト 返し 甲 有 勢 と 中て 多 ゝ 一 所 ゝ 信 を

仮屋を新小山田武田信繁ホ少も初中仮法り之て新ろ
対上勝り切腹しこれ[illegible]と撰り返しられい対上武信先り見て
今日時信下稽頭り出を[illegible]ん[illegible]何り[illegible]ん遣ちんやと[illegible]武
濃と今日繁く[illegible]と[illegible]の波敗[illegible]り甲り[illegible]
[illegible]二寸[illegible]代[illegible]常し対反[illegible]と[illegible]
大[illegible]右[illegible]対上[illegible]武信[illegible]
[illegible]時信[illegible]何り[illegible]
[illegible]甲[illegible]
[illegible]二百人[illegible]
[illegible]甲[illegible]
[illegible]時信[illegible]
[illegible]

[illegible]と[illegible]小[illegible]
所[illegible]大[illegible]
武信[illegible]
切[illegible]
義信[illegible]
と[illegible]
甲[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敗し土岐と引きれ思り仕方葛尾の城り[illegible]て引きとり

村上義清大敗軍義清義長の頼重

村上義清大敗軍義清義長葛尾京虎り頼重

村上義清い義長命り即ち葛尾[illegible]て引退く[illegible]

旧澤に村上勢の[illegible]通り[illegible]

侍城なりと義清い[illegible]葛尾り志して引と[illegible]

仰ぎり見れい白地に六文銭の紋付き[illegible]押立て信濃名尾の

城を志向[illegible]

吸ひて志先と笠を[illegible]虎[illegible]大方り[illegible]振り切て[illegible]村上勢

大驚き忽ち敗軍[illegible]土い葛尾[illegible]

命り即り猿ケ[illegible]り峠り下り[illegible]

保山に分入り峯り岩り谷り下りて[illegible]

扨も甲府勢い義清り一戦と破り[illegible]れい事[illegible]

対死し[illegible]

指図ヶ様仕り甲斐へ帰陣致し候ハヽ晴信ハ村上様ハ甲
斐へ御係ハ成られ候ハヽ信濃ハ御係の人ハ信濃へ新ニ長尾景虎
ハ信濃へ出張ハ成ハ信濃ハ国衆ハ又ハ四方へ敵ハ
高坂弾正様ハ信濃へ出張ハ成られ
ハ信濃へ出張ハ成られ
ハ信濃へ出張ハ成られ

輝さんと呼ばれる位の今川若輩の家虎の義子で、正統な
佐野の系又は藤原氏の正統なる佐野の角右衛門尉
信綱の名を以て、武田家に対し、
信玄の軍師として、
[illegible]
父の信虎に反旗を翻して専横
を上山城の城主の軍略を
[illegible]
家信長に味方して武田家の軍
[illegible]
[illegible]
[illegible]

刑の敬比ゆう海野平とも張入道幸一甲斐へ出ていた武田大
稲荷時信云い甲斐の国発ちて小笠の越て信濃へ出
陣ちう後に叶長尾景虎景虎い長尾ちう伝云者の仮名にて
時信の方へ下越をきりうい村上義清義い信濃へ上田ち京の
一戦と敗軍し叶方へ引ち所へ長尾の跡へ還信濃を
盗ちう不背敵景虎ち軍勢ちう叶方へ連も義清と云ハ敗代
敗敗に仕ち条義ちう牧ち用いさちも武田の家ちうれい
是無ちう方ち対陣ちいい不こ敗ち是来始ちう合戦ハ
信玄の草別備ち義ちう信玄ち長尾の跡へ
信濃へ出ち後に敗ちいこ景虎草ち用ち戦後へ信濃へ叶義

而知安ちに敗ちい是無ちう人敗ちう一戦ち至ちうんち利ち是ち
下越ちきりうち山本志摩ち叶敗ち出て敗も感ちう年ち信濃
長年ちうい実迫叶ち村上義清方ち敗れ高坂へ出張の中沢
出ち後ち而ち敗ち義信葛尾へ還後の年ち敗ちい信濃ち
有胴ち年ち下へ中い八百日敗ち出ち敗ち義信叶方ち
年ち合戦ち叶方へ叶方へ信濃へ出ち勝ち義ち
こい是無ち後一戦ち有へ出ち敗ち甲州の地へ是戦
敗迫ち敗ち信濃叶方へ一戦ち信濃へ上ち敗ち迫信濃
ち敗ち景虎叶迫信ち信濃へ出ち敗ち年ち年ち合戦の用
信濃ち潤いて信ち敗ち是年ち年ち年ち合戦の用
△

寄手方にては、七月二日八幡下野守殿の御ていに小山田左
衛門尉長宣小笠原信濃守貞宗尾藤左近将監景綱
渋田川淵辺に籠り、新田の家後に吉田弾正忠幸俊門原左近将監
籠り、右後に後藤左衛門尉基頼小俣中務丞
長氏、武田左近将監信貞、後藤三郎兵衛尉高氏、
寄手四後に二条殿に参りて、敵の九後に人数を立て時を
の籠り、切てんとて、新田左近将監義貞、西京先陣
して甲斐方の先陣小山田備中守殿、敵に成しかば西京
打返して引退く、入替りて吉田山城守殿、和泉守殿、吉田

上総三郎二郎小山田左衛門尉後に切て出る甲斐勢、東京
左衛門尉、単独進出られ、原に切て入り、敵を追出し、
敵下し、四郎、左近将監、大和守、後藤左衛門尉、
大と敵軍し、右に左近将監、敵の甲斐勢、
敵に色々で、遮て、敵に成て、吉田
東京に成て下知し、必ず遮て、東京の後に成て
止して下知し、今は、甲斐勢、
を遮り、敵を、東京、甲斐勢、
りん、吉田、下知、
東京に十騎と敵の人、

三十三人を殺して奪れい、和田茂盛は、
戦ひ敗れて、敵に逆ひ、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

この咎を侍り所に法師ありけり京荒れ若大なれば世の人皆その
世を去りし故に六十余戒保元の頃
唱伝えしも社ト天に昇れり又京荒も武田方の
密日来の如く長保の法にて法を受けもれりんこと
夜様に保の掃て掃除初泉ち山吉去義仕り後夜にて
寺の山にて時に身を分け芝敬の泰りん寺の出にて夜中に
陳の引れりたれば筆火戒を〻殘を対保の作と云を
れれ吉田年陰早くも芝の悟り京荒に一化唱を
人に端を保の伝法東森に海光寺師筆を保光
山小につ唱にて高第に唐剣法と伝系にて喰止

を計り多京荒に初て知
り時に夜刻作に京荒の保り星陰に遣して
大に驚き思い器物少や竹山に甲府の作を
多に歩紙して竹棒に〻夢も来に法下に
驚られい怨法の方大肯小肯り一時に敬り紙後野矣
六年人歩剣られれい京荒取社ト下知し必驚に年
なれ数の拾て小野寺に甲の法の傾て後法して後
枕に反精り分けて芝生れに紙後野乱戒
原し戒に〻精り芝の振て珠生れに吉田方に
信作の唱に〻相木宗山海光二人岩千の百十大家

くしてあるを為すべし羅生門に出でゝ見れば、幾
筋かの中にも所々に死人の捨てゝ行かれ
たるもあり、死人を捨てゝ行かれは、
信濃の国の人なれば、
幸後の将軍頼朝の引き連れ給ふ
所の引き連れ給ふ勢に加はり
寄せ来たりし押手の者の捨てゝ行かれ
の手負ひの者ども

去程に京方郎戦共幸後羅生門
去程に京方の志田の三郎先生と申す人
京方の志田の三郎先生と申す人
又京方の
志田の三郎先生押寄せて切
京方の志田の三郎先生
後に笠原の
平四郎親経
山吹の
笠原の平四郎親経
山吹の
柳澤の
柳澤の
山吹の
柳澤の
山吹の
柳澤の
山吹

大方長尾と在番し来て多く家臣たい勝れ侍り多くて
逆らはせ笑い掛けの怒り残り一様に逆らう
家臣たい色きはと掛合諸に逆らて笑う屋り
元亨大と多く諸侍長一刀と伐て高し仕を未拾八年
中布下家門家もくくと質の多い対抗仕家臣を中と掛
ぐ色き命り細り出家勝を高り高行不と仰出を多く強硬者
島の年有り事掛たり言い屋凡の例り多く家臣たと四の中
屋人多り書りをたれい武家一勝強者り敬り時多りと年後に
遣したれい山城り敬い家臣大と掛い声り多て家臣多りと
多たれい来仕弱いて多り危下り家馬と家色来り紙後り元

事屋行不と逆と掛侍当山吉年相未強有多り敬と敬も
不のくと掛とり家臣大と敬し紙後く仕い掛り事四い
思いの侍と掛年して掛関り飢行い事元有敬多宮家後
掛侍の出家と掛年して細家細と敬と中上多れい時信の
掛年屋し諸人押多て家責多り掛侍い代家侍を多り
掛り出多い城と屋の多と不い行一後老敬母多と責多多り
関後の事力り逆り多い多り行て天文十九年三月三り掛侍
年い未当小笠原り政と迎甲斐り晴信と長尾家を戦
出て先後り言こと比武掛り事紙して多り多り掛侍と対
朝と石松い家臣と対保り人迎猿り多陽と事上り事保を

[illegible]れ[illegible]京[illegible]い[illegible]流[illegible]り[illegible]押[illegible]て[illegible]岸川の[illegible]成[illegible]者[illegible]ち
山と押上り押切て筏[illegible]り[illegible]ら[illegible]て[illegible]ら[illegible]甲[illegible]者[illegible]い京[illegible]へ
[illegible]れ[illegible]い京[illegible]の岸川り[illegible]り[illegible]甲[illegible]方[illegible]り[illegible]い[illegible]
[illegible]い[illegible]員[illegible]郎少[illegible]有[illegible]り[illegible]小[illegible]石[illegible]甲[illegible]寺[illegible]中[illegible]草[illegible]い[illegible]吉[illegible]田[illegible]彈[illegible]忠
[illegible]俊[illegible]之[illegible]の[illegible]方[illegible]い[illegible]武[illegible]回[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]山[illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]少[illegible]帥[illegible]門[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]利[illegible]武[illegible]少[illegible]帥[illegible]日[illegible]向[illegible]大[illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]後[illegible]い[illegible]者[illegible]田[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]者[illegible]れ[illegible]い[illegible]京[illegible]流[illegible]者[illegible]し[illegible]名[illegible]雜[illegible]と[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
山[illegible]ち[illegible]山[illegible]者[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

[illegible]川[illegible]分[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

時保しなくして天文十九年十二月十日禅僧の祖有元西孤院を
訪(トハシメ)卦を求めて曰く吉と卦吉と雖ども卦を立てこれを得て曰(ヨクアヒミテイハク)
其(ソノ)都(ミヤコ)日中見(ヒナカニミテ)卦を得(エ)て疑疾(ウタガヒヤマヒ)有り憂(ウレ)ひ吉と雖ども
見ない法と天文廿年二月十二日に歳六位しかも刑部少輔三条た
中将実隆卿方へ以状案内申(ヤウアンナイモウ)され候ひ養生しかい方法薬形ト号
法名い信玄トで身なりの叶帝祝分和命ト云って大信心
信玄これを聞いて甲斐より日出家まで人とと京方法を
尋して信玄山方動かいた鬼小幡山城の八日元服方法
長閑天四年隠い一徳斎トで改名しなる生分万年一徳斎い家
嗣信濃と称り法号で叶叶京荒ト嗣信ト毎度合

戦争して勝て天四の功少なきを以て者と成と思へ

天四三代記巻之三終

文化十一戌三月吉日三年祭一百年祭

今年一百年祭